

令和6年度 研究計画

大社小学校

1 研究主題

「自ら考え、伝え合い、深め合う児童の育成」
～説明文の授業づくりを通して確かな言葉の力をつける～

2 主題設定の理由

<今日的な教育の課題より>

子どもたちがこれから進んでいく社会は、多様な価値観や文化の人々が共存する社会である。ITなどの科学技術の高度化、情報化、高齢化、禍や災害など児童を取り巻く環境は急速に変化し続けており、多岐にわたり複雑化している。これまで必須とされてきた知識や技能が、別の知識や技能にとってかわられてしまうことも少なくない。正解のない課題に対して自分なりの考えを持ち、行動していかなければならない場が、ますます増えていく毎日である。変化の著しいこれからの社会で生活していく上では、自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的に対応できる資質や能力、また他者とのかかわりの中で最適解を見つけ出し、よりよく生きていこうとする人間性の育成が重視されている。

個が高まり豊かになるためには、他者とのかかわりが欠かせない。他者とのかかわりを通して自分の思考の内容や程度を知り、自分の学びの方向を定めることができる。また、他者を知ることで、個の思考を広げ、深めることにもなる。つまり、他者とのコミュニケーションにおける受信、発信という双方向から言葉の力をつけることを考えたとき、「確かさ」をもって伝え合う必要があると考えた。

「これからの時代に求められる国語力」(文科省)においても、他者との円滑なコミュニケーションを実現するための、論理的思考力の育成の重要性が挙げられている。例えば国語科の授業の中で、自分の思いや考えをもつためには、文中の言葉から想像を広げたり要旨を捉えたりするなど、確かに読み取る力が必要である。また、自分の考えを話したり書いたりして伝えるためには、言葉を確かに使う力が必要である。

このように、一人一人の児童に確かな言葉の力を育てていくことが、自らの置かれた様々な状況に応じて、適切に自分の思いや考えを表現していくことの実現につながり、多様にある言葉の中から適切な言葉を選んで使うことを可能にし、豊かな国語力がついていくのではないだろうか。

<本校の教育目標より>

本校は、学校教育目標「たくましさと創造性に富み、人間性豊かな子どもの育成」を達成するために、「かがやくひとみと笑顔の子」をめざす子ども像に掲げ、児童一人一人がもっているよさを生かし、生きる力を引き出す教育活動を追究している。

<児童の実態より>

本校の児童は、歴史と文化に恵まれた環境の中で育ち、素直で明るく、友達と仲よく活動することができ
る。しかし、自分で考え、進んで行動したり、自分の思いを豊かに表現したり、粘り強く取り組んだりするこ
とは苦手な傾向にある。

全国学力・学習状況調査等の結果からは、本校の児童の課題として、語彙力の不足や、文章の内容を
的確に読み取ったり、自分の思いや考えを言葉や文章で表したりする力が十分でないという実態が把握
できている。また、昨年度までの授業づくりの取組を通して、見通しをもちながら学習を進める児童が増え、
国語学習への意欲が高まり始めているところである。

そこで本年度は「国語科」の「読むこと」の「説明文」に焦点を当て、確かな読みの方策を身に付け、文
章の内容を的確に読み取り、主体的に表現する子どもの育成に重点をおいた3年次の研究を進める。特に
今年度は、つけたい力を明確にした授業づくりを行い、自分の思いや考えを主体的に表現する児童を育て
ることを目指す。

3 研究主題の捉え

「自ら考える」とは

- ・見通しをもち、意欲的に取り組む
- ・自分の考えをもつ
- ・粘り強く取り組む
- ・対話的な学びを通して自己内対話を続け、考えを広げ深める
- ・学んだことを活用しようとする

「伝え合う」とは

- ・友達の考えを受け入れて、自分の考えと比較する。
- ・自分の考えの根拠を明らかにして、分かりやすく表現する。

「深め合う」とは

- ・対話的な話し合い活動を通して「新たな考え」や「よりよい方法」に気付く。
- ・学習したことを、進んで生活や学習に活かそうとする。

4 めざす子ども像

- ・言葉を大切にする子
- ・主体的な読みや自己表現ができる子
- ・読み進めた読みを互いに伝え合い、自分の読みを深める子

5 研究のねらい

- 主体的に読み進めていくことができる子どもを育てる。
- 自分の考えを表現することができる確かな言葉の力を育てる。
- 互いに伝え合い、深め合う力を育てる。

6 研究仮説

温かい人間関係の中で、つけたい力を明確にした授業づくりをすれば、課題に対して「自ら考え、伝え
合い、深め合う力」を育てることができるとであろう。

7 研究の手立て

【授業づくり】

- ① 「身につけたい力」を明確にした国語科の授業づくり
 - ・授業スタンダードを生かした、つけたい力を明確にした単元構想の設定(資料)
学年の系統性 発問の工夫
 - ・説明文の読みの基礎、基本の指導
読み取りの10の観点(資料)・言葉の力など
 - ② 主体的な学びを実現する学習展開の工夫
 - ・「やってみたい!」「考えたい!」等、必要感のある学習課題の設定
 - ・学習の見通しをもち、自ら主体的に取り組むための工夫
導入・学習のしおり(資料)・ノートづくり・ワークシートの工夫など
 - ・学びの成果を実感し、自己の変容がわかる振り返り(メタ認知)の場の設定
振り返りの観点の明確化
- <教師が教えすぎないこと>
- ・発言を教師が繰り返さず子どもが言うようにする
 - ・子どもが説明する ・子どもがまとめる など
- ③ 自己の考えを広げ・深める「対話的な学び」(だんだんトーク・自分トーク)の在り方
 - ・自己内対話(自分トーク)で自分の考えをもつ場の設定
(自己決定の場・ノートづくり・振り返りの場など)
 - ・互いの考えを伝え合い、考えが深まっていくための対話的な話し合い活動
(めあてを明確にしただんだんトーク)の工夫
 - ・「対話的な学び」から「深い学び」へと進めるための手立てを探る。
(問い返しのある学び・つながる言葉の強化・教師の評価言など)
 - ④ 家庭学習とつながる授業

【環境づくり】

- ① 対話力をつける活動
 - ・「だんだんタイム」などを通した人間関係づくりの取組
 - ・つなぎ言葉などの指導
- ② 豊かな言語力を育てる活動
 - ・音声表現活動の充実(今月の詩・音読・スピーチ・声づくり)
 - ・語彙力を高める工夫(国語辞典の活用など)
- ③ 学習を支える環境づくり
 - ・学習規律の重点の共有(今年度:話を聴く態度・話し方、姿勢、チャイム着席)
 - ・学校図書館の活用(読書、思考ツール)
 - ・掲示(既習事項、つなぎわざ、聞き方名人)
 - ・情報活用をする力(新聞を使ったワークシート)
 - ・ICTの効果的な活用

8 検証計画

- ・授業記録の分析(教師の発問・働きかけ、児童の発言・活動など)
- ・ノート、ワークシート等(内容や振り返りの言葉など)
- ・学力調査結果の分析

9 研究授業

- ・各学年1回、国語の指導案審議、研究授業、研究協議を行い、原則として全員参加する。→状況を見て判断
- ・学年部で指導案作りを行う。(指導案審議、事前の授業実践など)